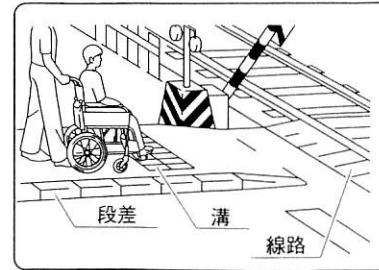


## 6.走行上の注意

- 車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、前輪キャスターの挟み込みには充分注意してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。

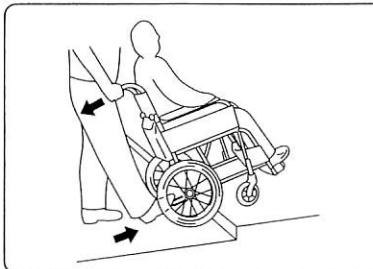


## 7.段の上がりかた

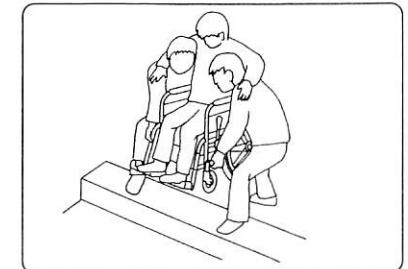
- ① 足元の『テッピングレバー』を押し出し、『押し手』を手前に引くようにしてキャスターを段の上にあげてください。
- ② 後車輪を段に突き当て、車いすを押しながら『押し手』を持ち上げてください。
- ③ 車いすに乗ったまま吊り上げるときは二人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持って吊り上げます。

**▲警告** 持つ箇所によって破損や事故につながるおそれがあります。次のような機構等の箇所は持たないでください。「背折れフレーム」「スイングアウト機構のフットレスト」「脱着式およびね上げ式機構のアームレスト」等。

①②



③

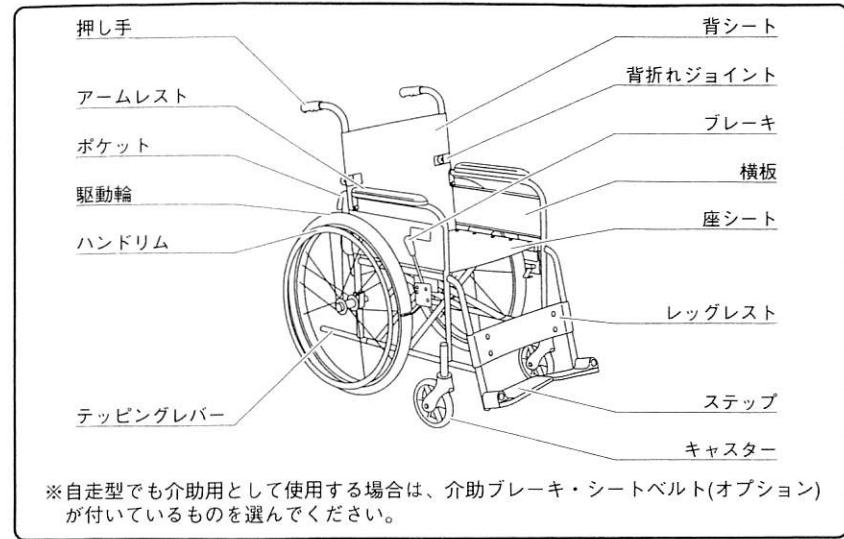


## 留 意

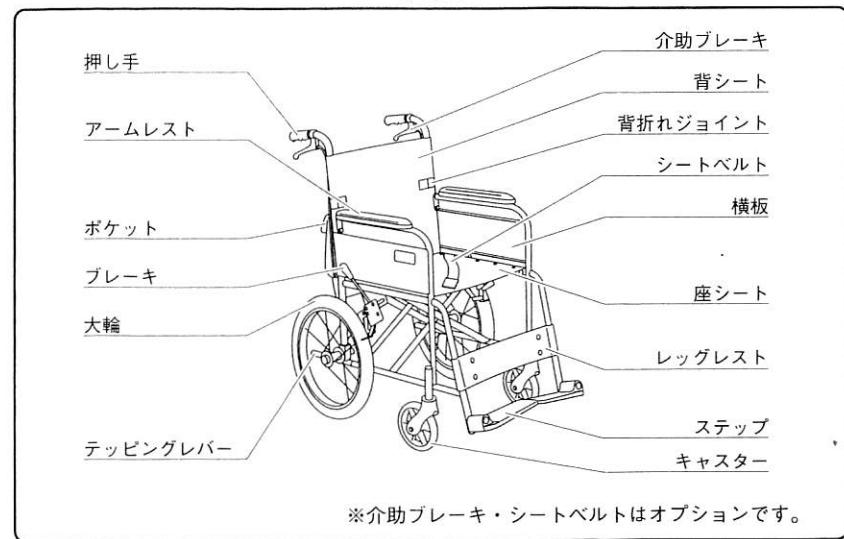
- 車いすのフレームの耐用年数は5年を基本にして製作されています。
- 5年経過後使用される場合は、必ず販売店へご相談ください。

## 1.各部の名称

〈自走型〉

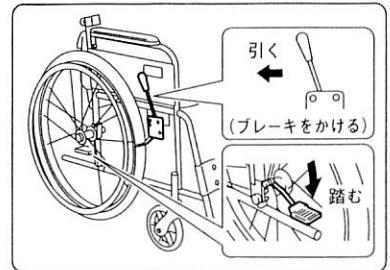


〈介助型〉



## 2.開きかた

- 車いすのブレーキを両輪にかけておきます。



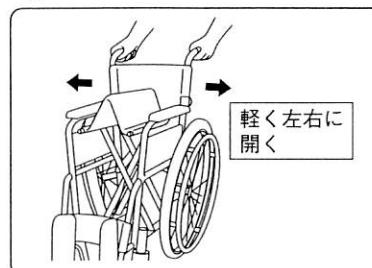
- 押し手を両側とも上げます。(このとき、開口部に手や指を近づけないこと)  
手を近づけない



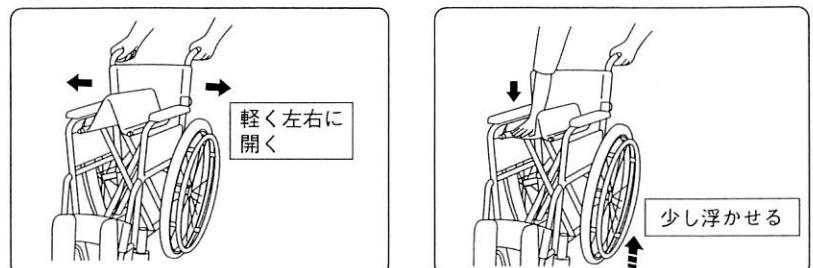
- 押し手を持って軽く左右に開きます。
- 片側の車輪を少し浮かせて、その状態を保持します。

- 車輪を浮かせてない側の座シートの上を、手の平で押して開きます。

③



④⑤



▲注意



シートパイプを握って開くと手がはまれ危険です。

## 危険

【死亡または重傷を招くもの】

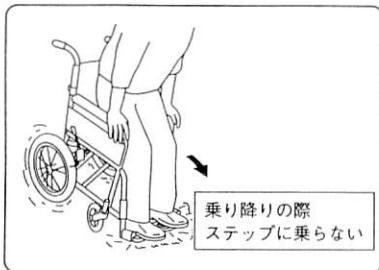
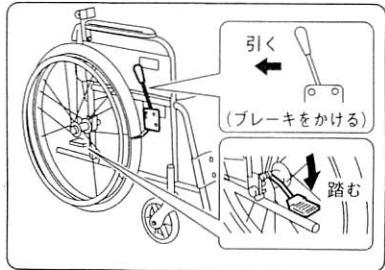


- スピードを出さないでください。  
スピードが出ているときの急カーブ・急ブレーキは、転倒し大変危険です。
- 下り坂のとき、介助型の場合は後ろ向きにゆっくり降りてください。介助ブレーキがあるときは、ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。
- 下り坂のとき、自走型の場合はハンドリムを使いスピードを落とし、必ず前向きで降りてください。不安な場合は助けてもらってください。

## 警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

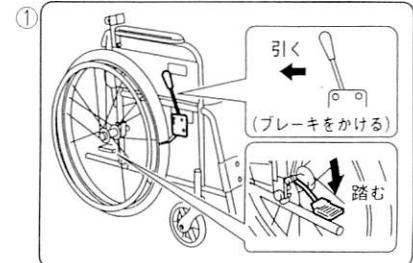
- 乗り降りの際には必ず両輪にブレーキをかけてください。  
ブレーキがかからっていないと、車いすが動き出し危険です。少しの間の停止でも必ずブレーキをかけてください。
- 乗り降りの際にはステップに乗らないでください。  
車いすが持ち上がり転倒します。



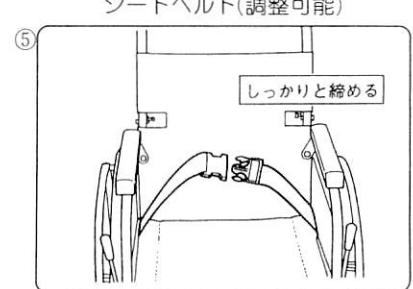
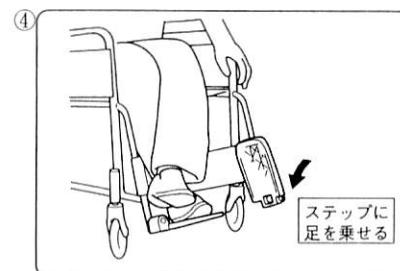
- 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。  
坂道等の傾斜のある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながるおそれがあります。
- 乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。  
レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- 上げたステップに足が当たらないよう、注意してください。  
けがをするおそれがあります。

## 4.乗り降りのしかた

- ① 車いすのブレーキを両輪にかけておきます。
- ② ブレーキをかける
- ③ ステップを両方とも上げます。
- ④ 上げたステップに足が当たらないよう、注意してください。
- ⑤ 車いすをしっかりと保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ⑥ シートベルト(オプション)を締めます。体格にあわせてシートベルトを調整し、座位をしっかりと安定させてください。



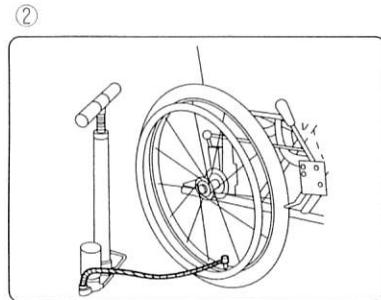
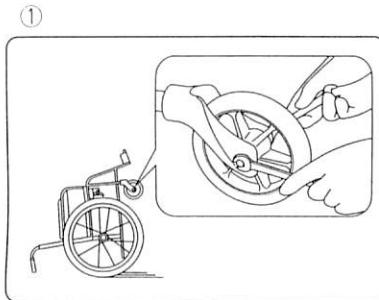
- 降りるときは、上記と逆の要領で行ってください。



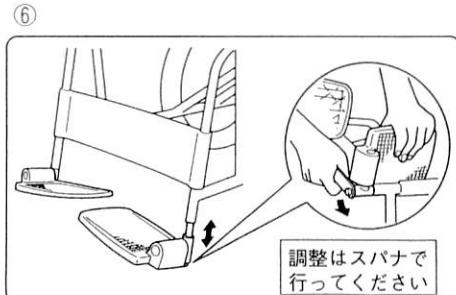
## 5.保守・点検

- 乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用をしてください。
- 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

- ① **▲注意** キャスター・車輪・ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- ② **▲** 2週間毎にエアー補給  タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくとも空気は抜けていきます。(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。) オプションのエアキャスターをご使用の場合には、空気が抜けているとき以外でも2週間毎に空気を補充してください。



- ③ ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店へ調整の依頼をしてください。
- ④ パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店にお尋ねください。また、パンクしたまま乗らないでください。
- ⑤ 車いすは湿気に弱いので水のかかる場所に放置しないでください。
- ⑥ 足の長さに合わせてステップの高さを調整してください。  
(地上高さより50mm以上にしてください。)



## はじめに

この度は、車いすをお買い求め頂き誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読み頂き、確実に理解してください。そして適切な取り扱いと保守をしてください。また本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管してください。

本書は標準仕様の車いすについて説明しておりますので、特殊仕様の車いすについては、別途取扱説明書を参照し販売店の説明を受けてください。

## 目次

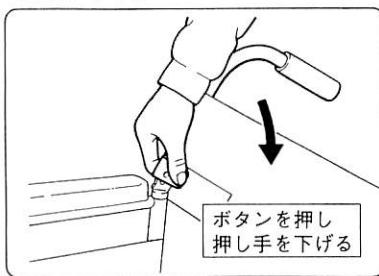
|                   |   |
|-------------------|---|
| はじめに .....        | 1 |
| 目次 .....          | 1 |
| 危険・警告・注意 .....    | 2 |
| 1. 各部の名称 .....    | 4 |
| 2. 開きかた .....     | 5 |
| 3. たたみかた .....    | 6 |
| 4. 乗り降りのしかた ..... | 7 |
| 5. 保守・点検 .....    | 8 |
| 6. 走行上の注意 .....   | 9 |
| 7. 段の上がりかた .....  | 9 |
| 留意 .....          | 9 |

※ 本書の内容は、製品改良のため予告なく変更をすることがあります。

### 3.たたみかた

- ① 車いすのブレーキを両輪にかけておきます。
- ② 下図のように、両側とも押し手を下げます。

ボタンタイプ



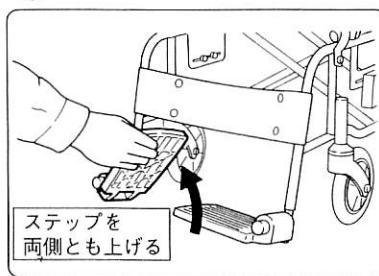
ノブタイプ



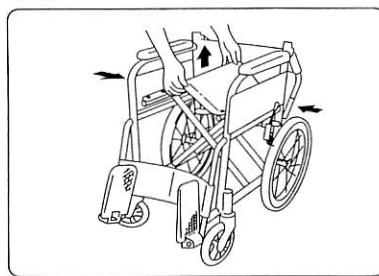
- ③ ステップを両側とも上げます。
- ④ シートを持ち上げ、ゆっくりと左右を寄せます。
- ⑤ 両側からアームレストを押さえてたたみます。

**△注意** 車いすをたたむときは、アームレストを握らないでください。  
手を挟み危険です。

③



④⑤

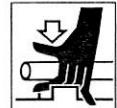


注 意

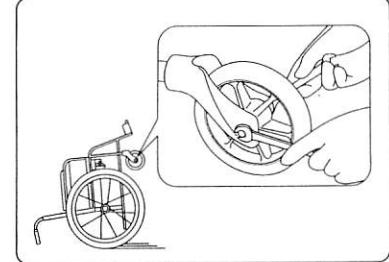
【軽傷または中程度の傷害を招くもの】



- 暖房器具にタイヤを近づけないでください。  
タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。  
パンクした場合は乗車をやめて必ず修理してください。



- 車いすを開くときにシートを握って押し下げないでください。  
手を挟み危険です。



- 乗る前に車輪・キャスター・ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- 車いすをたたむときは、アームレストを握らないでください。  
手を挟み危険です。
- フレームに最大体重(積載物も含む)が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。
- 調整式ステップは、地上高さより50mm以上あげた状態で使用してください。
- 走行中、足がフットレストから落ちないようにしてください。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安定を損ない危険です。

SGマーク付  
製品について



\* SGマーク制度は、車いすの欠陥によって発生した人身事故に対する賠償制度です。

\* 安全性が確保されています。

\* 誤使用を防ぐために取扱説明書がついています。

\* SGマーク付き製品の欠陥により、人身事故が起きた場合は、賠償処置が実施されます。